

塾生の皆様へ

面接試験は、リハーサル・リハーサル・リハーサル

開倫塾

塾長 林明夫

1. (1) 面接試験は、リハーサル・リハーサル・リハーサル。リハーサルがすべてです。しっかり、リハーサルをして、本番に臨んでください。

(2) <出題例>

- 「なぜこの学校に進学を希望するのか」
- 「この学校を卒業して、何をしたいのか」
- 「将来の夢や希望は何ですか」
- 「今まで読んだ本で一番感銘を受けた本は何ですか」
- 「尊敬する人物は誰ですか」

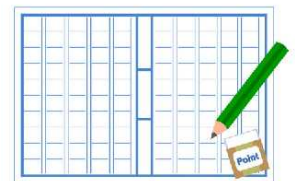


(3) <リハーサルの手順(順序)>

- この出題例を参考に、予め、自分の考えを自分のことばで、メモしておくことが第一。
- そのメモを頭に入れ、何も見ないで、スラスラいえるまでにすることが第二。
- 面接の時間の直前まで、今までに作り、練習したメモを、何回も見直し、さらに、頭の中で練習を繰り返すことが第三。

2. (1) 作文を含む筆記試験も、リハーサルがすべてです。

- (2) <出題例>は、「面接試験」と同じです。これらのテーマで、400字詰め原稿用紙2~3枚にまとめ、「作文」のリハーサルを。



- (3) この練習のために、教科書や開倫塾のテキスト、新聞、雑誌などで目にした文章で気に入ったものを、毎日1回、原稿用紙2~3枚分、書き写す。

3. (1) 日本経済新聞1月22日夕刊電子版

<明日への話題>ミネベアミツミ会長 CEO 貝沼由久著「飛行機」は、示唆に富みます。



- (2) 「幼稚園で園児を整列させて『前へならえ』を練習させるのは、幕末からの日本の教育で、西側諸国ではまれだ。日本人の集団行動の力は、取りも直さず日本の力だ。今回もその力が遺憾なく発揮される」

- (3) 1月2日、羽田空港での日航機と海上保安庁の衝突・炎上事故で日航機の乗員・乗組員379名全員が救出されました。これは乗組員の緊急避難訓練と乗客である日本人の集団行動の賜と素晴らしい誇りです。

4. (1) 日本の小学校・中学校・高校で行われている、「教科外教育活動」、例えば、入学式・卒業式、学期の始業式・終業式、朝の朝礼・HR、学校祭・文化祭・体育祭、宿泊訓練・修学旅行・芸術鑑賞などの学校行事や、当番・学級会・生徒会・児童会、部活動・クラブ活動、ボランティア活動、職場体験などは、豊富な歴史と伝統を踏まえ、教育的に質の高いもので、海外の教育関係者からも、高く評価されています。

(2) 塾生の皆様も、「学校での教育内容」の勉強と同時に、「教科外教育活動」に積極的にご参加ください。

(3) PISA 調査で、「読解力」「数学力」「科学力」で世界のトップクラスの結果を出し続けているのは、「学校教育」と、学習塾などでの「学校外教育」の成果です。学校でも、開倫塾でも、しっかり勉強してください。



5. <入学試験の「価値（大切さ）」とは>

(1) 高校入試の受験勉強の「価値」「大切さ」とは何か。高校入試の出題範囲は、中学校 3 年間の全学習範囲です。この中学 3 年間の全教科の学習内容は、高校や大学、社会に出てからも役に立ちます。



(2) 高校入試の受験勉強は、この中学 3 年間の学習範囲を復習し、「理解」を深め、すべて「身に着ける」「定着」をする絶好の機会です。高校入試で合格点を取るには、中学 3 年間の各教科の全学習範囲を、「理解」し、得点できるまでに「身に着ける」「定着」させなければならないからです。

(3) 高校入試の受験勉強をすることで、高校や大学、社会に出てからも、一生涯、死ぬまで、役に立つ、中学校の各教科の全学習範囲を、もう一度勉強し直し、「理解」し、「定着」させることができる絶好のチャンスと考え、このチャンスをしっかり活用しましょう。

6. <学年末試験の「価値（大切さ）」とは>

(1) 入学試験と全く同じです。学年の最後に行われる「学年末試験」の出題範囲は、その学年に学んだ内容です。



(2) ですから、学年末試験で、各教科 100 点満点を目指す勉強をすることで、その学年の各教科の学習範囲を、すべてよく「理解」し、「身に着ける」、「定着」させることができます。

(3) 学年末試験まで 1 カ月間、しっかり勉強し、各教科の 1 年間の学習範囲をすべて「理解」し、身に着け（「定着」させ）、自分のものにし、100 点満点を目指しましょう。

7. (1) 本日、1月23日には、栃木県鹿沼市立西中学校で、中学2年生全生徒に対し、「立志式」が行われ、「立志式」の記念講演会をご依頼されました。

(2) この「立志式」と「記念講演会」も、大切な「教科外教育活動」ですので、「一所懸命」お話させていただきます。

(3) 中学2年生の塾生の皆様も、「志を立てる」とは何かについて考えてみましょう。

8. すべての試験の「価値（大切さ）」も、入学試験や学年末試験と全く同じです。

(1) まずは、試験科目（出題範囲）について、スミからスミまで、教科書（テキスト）をしっかりと「理解」。

(2) 次に、理解した内容を、しっかりと「定着」「身に着ける」。

(3) <応用>「理解」「定着」したことを用いて、「合格点」や「100 点満点」を取り、「入学試験や資格試験に合格」すること、「学校成績向上（校内順位アップ）」させること。

